

甲府市
下帯那
のんびり
フットパス
ガイドブック

02

下帯那の集落を散策し、
千代田湖畔をめぐり白山に登り、
健康の森からこうふのまちを展望する

もくじ

- 01 ●千代田湖
- 02 ●千代田湖
- 03 ●丸山の六地藏石幢
- 04 ●御嶽道道標
- 05 ●堂の山青少年キャンプ場
- 06 ●諏訪神社
- 07 ●岩船地藏と石像物群
- 08 ●幸澗院と信玄公御詠所
- 09 ●千代田小学校
- 10 ●丸山貯水池の碑
- 11 ●牛頭天王と石像物群
- 12 ●健康の森
- 13 ●健康の森
- 14 ●佐藤紫舟記念碑
- 15 ●湖畔の神宮司
新太郎の銅像と石碑
- 16 ●白山
- 17 ●白山八王子神社





千代田小学校

丸山貯水池の碑

北
④

丸山の六地藏石幢

牛頭天王と石造物群

千代田湖

白山

神宮司新太郎

佐藤紫舟記念碑

山宮

白山八王子神社

至 天神森 至 昇仙峡

小学校
JA

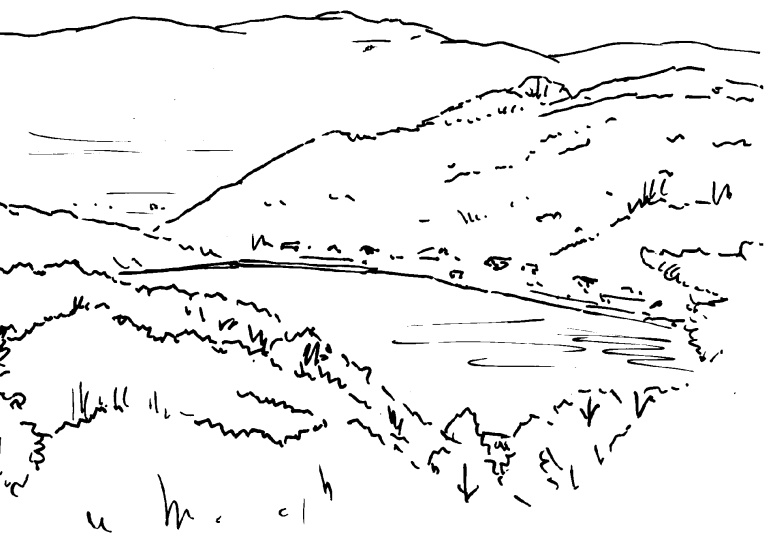
104

健康の森

片山

千代田湖

千代田湖は人工的に
つくられた溜池
(ためいけ)である。



01

甲府盆地は、古来から水質の良い井戸が少なく、常に水不足に悩まされてきました。大正時代には人口増加や製糸場などの工業の発展によりますます水が不足するようになり、しばしば断水を行わなくてはならないようになっていました。特に水の需要期である夏場は断水が多く、「断水は甲府の夏の名物」とまでいわれるようになりました。

そこで甲府市は新たな水源探しをはじめ、荒川上流の宮本村上黒平（現甲府市）に貯水池をつくり千代田村平瀬に浄水場を設ける計画をたてました。この扇谷貯水池案には、周辺農村から旱害（かんがい・日照り続きのため、農作物が受ける被害）や井戸水の涸渇（こかつ）、堰堤（えんてい）が崩れたときの被

害が甚大などと猛烈な反対の声があがりました。国会議員も巻き込んだ事態となり、計画は白紙に戻されました。

そこで山梨県は調停案として、千代田村字下帯那地内に丸山貯水池（現在の千代田湖）をつくることを提案しました。農業用水改良も兼ねるのでこの案には国庫補助がつくこと、平地にため池をつくるので工費が安いこと、ダム崩壊の危険がないことなどの長所がありました。旱害を受ける耕地には濁川の水を揚水ポンプで引き上げて補給するなどの案を出し、沿岸村の賛成を得て昭和八年十月から工事が着手され、十二年に完成しました。これにより市民約十五万人への給水が可能になりました。

千代田湖

千代田湖は、観光名所として
たくさんの家族連れでにぎわっていた。

02



千代田湖は、周囲約二・五キロメートル、水深十五メートル、総水量約四十六万立方メートルの人造湖です。この工事に要した工費は八十一万円。そのうち国庫補助金を除いた六十二万円余りを甲府が負担しました。その維持管理運営は近隣町村に設けられた荒川沿岸用水利用組合が行っています。

甲府市では開発の具体策のひとつとして毎年稚魚の放流を行ってきました。昭和二十五年ころから、関東へら鮎釣り大会をはじめ多くの釣り大会が開催されるようになります。釣人のあいだで知られるようになり

ました。

その後、昇仙峡が観光名所となると、甲府駅と昇仙峡との中間に位置し、湖畔には花崗岩の白い砂で覆われた白山が迫り、その白色が湖面に映る風景は昇仙峡とは異なった趣を呈していると観光地しても知られようになりました。昭和三十年代には、湖畔には売店や茶屋、バンガローが建ち並び、ボート遊びやキャンプ、茸狩りを楽しむ家族連れの行楽地としてにぎわいました。現在でも、春には桜、秋には紅葉を楽しむ人が多く訪れています。



丸山の石像物群

千代田湖の湖底には、丸山集落が眠っている。



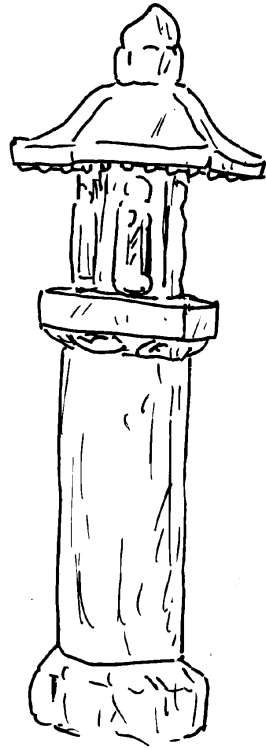
03



丸山集落の遺跡
千代田湖の湖底には、丸山集落が眠っている。

千代田湖の湖底には、丸山集落が眠っている。

千代田湖の湖底には、丸山集落が眠っている。



千代田湖がつくられた場所には、丸山という集落がありました。貯水池をつくるためにそこで生活していた三十二戸の農家の人々はやむなく別の場所に移転しました。湖畔には、かつて集落の中あつた道祖神などが集められています。一番大きいものは六地藏石幢です。石幢は平安時代からつくられ始められたといわれています。主に経文を納めたことを示す標識や供養塔として建てられました。室町時代頃から地藏信仰と結びついて六地藏像を龕部(がんぶ)の中

に納めるものがつくられるようになり、江戸時代以降広く建てられるようになりました。

丸山の六地藏石幢は享保十二(一七二七)年に供養のために建てたと刻まれています。他にも明和四(一七六七)に建てられた庚申塔や天保七(一八三六)年に四国八十八ヶ所を参拝した記念に建てられた巡礼塔などもあり、集落の歴史が感じられます。



御嶽道道標

昇仙峡駐在所の前には、
「御嶽道」をしめす道標が
建っている。

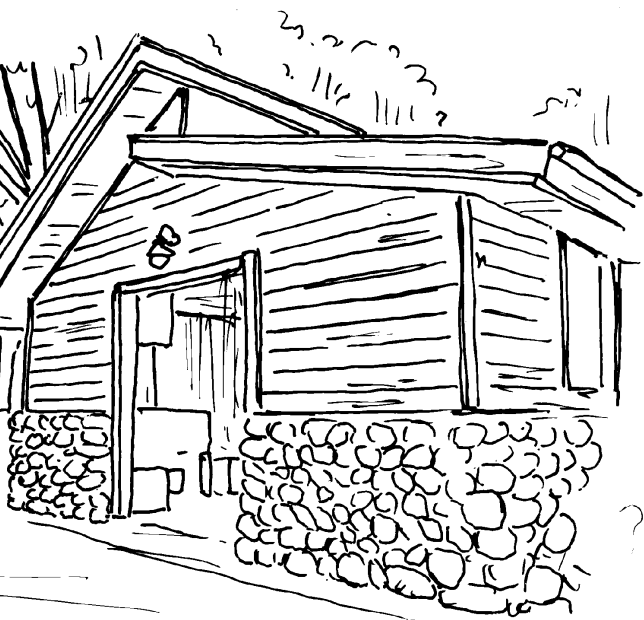
04



昇仙峡駐在所の前には「右むら 左
みたけ」と刻まれた道標が建っています。かつて和田峠が「御嶽道」だったことがわかります。

「御嶽道」とは、山梨県と長野県の県境にそびえる金峰山（二五九五メートル）を霊山として参詣するための登山道のことをいいます。金峰山は、古くから甲州御嶽山といわれ、役小角（えんのおずの）によって奈良金峰山から蔵王権現を勧請したことが始まりといわれています。金峯山山頂にある五丈石（ごじょういし）

よういし・御像石）と呼ばれる岩を本宮として、古代から中世にかけて修験道の修行を行う場所として栄えました。とくに南北朝時代には吉野の金峰山に登ることができなかつた全国の修験者がこぞって訪れて修行したといえます。また、江戸時代にはいると富士山への参詣者が甲州御嶽山にもまわるようになり「道者街道」と呼ばれにぎわいました。



堂の山青少年キャンプ場

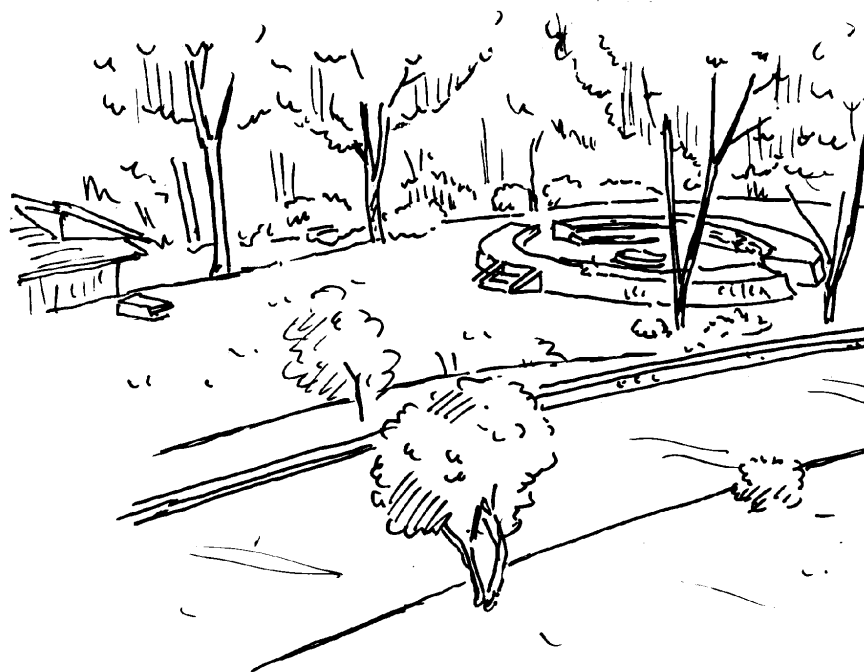
市内の青少年たち集まれ！
野外活動を通じて自然とふれあおう
「堂の山青少年キャンプ場」

05



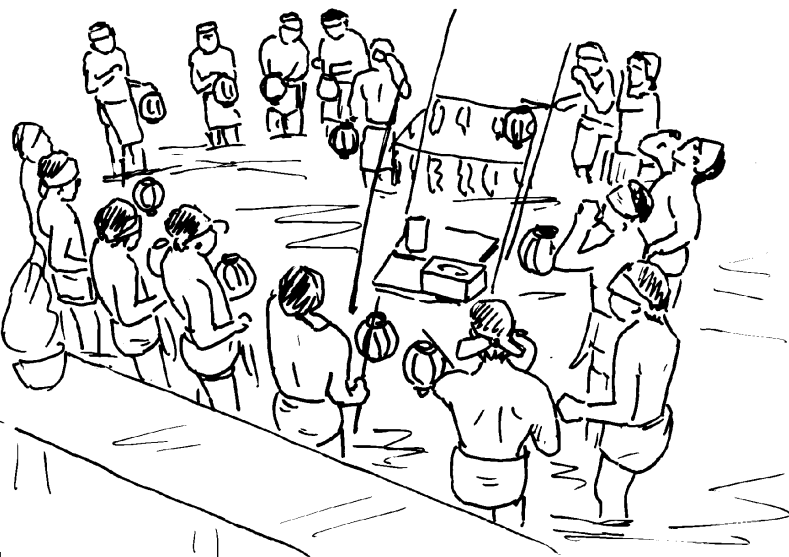
千代田湖の湖畔から北へ上がったところに「堂の山青少年キャンプ場」があります。市内の青少年が野外活動を通じて自然とふれあい、心豊かな人間性を培うための無料テントキャンプ場です。テントや飯ごうなどのキャンプ用品も無料で貸し出してくれるため、子どもクラブや幼稚園などの利用も多いそうです。

場内には炊事棟やトイレも完備されているので、キャンプ初心者でも安心して楽しめます。管理棟の下にあるファイヤーサークルでキャンプファイヤーを行うこともでき、子どもたちの思い出づくりに役立っています。



諏訪神社

下帯那の諏訪神社では祭り前夜に「お洗垢離(せんごり)祭り」が行われる。



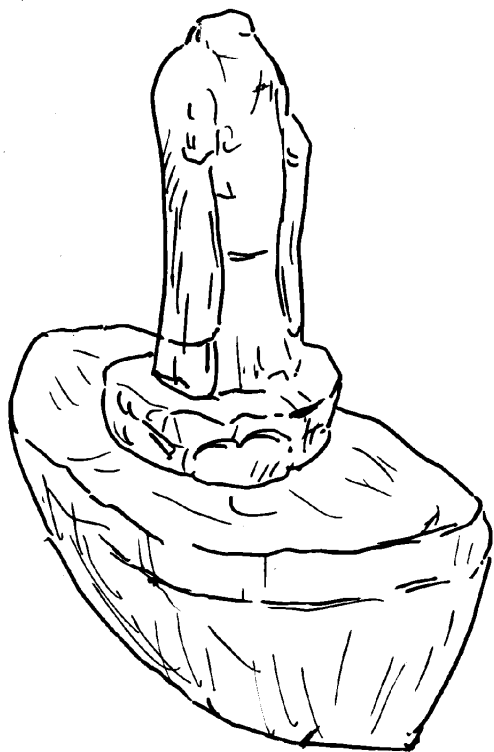
06

諏訪神社

下帯那諏訪神社では毎年十月に行われる祭りの前夜に「お洗垢離祭り」が行われます。垢離（ごり）とは、神仏に祈願をする前に水で体を清めることをいいます。集落の青年たちがお垢離場である堀に入り「さんげ、さんげ ろっこんしょうじょう」と唱題を唱えながら互いに水を掛け合うもので、峡東地方に多くみられる石尊まつりのひとつと思われまます。



下帯那諏訪神社でも、集落の若い男性がフンドシ姿で神社の近くの川で水垢離をしたあと、神社の東の山の中腹にある金比羅社に提灯（ちようちん）を手に駆け上がり、祠の前で祝詞（のりと）をあげます。お祭りの由来は定かではありませんが、「雨乞いの行事」であるとか「疫病払いの祈願」などと考えられています。



岩船地蔵と石像物群

下帯那には、岩船に乗った
お地蔵さんがいる。

07

諏訪神社の北側の石垣の上の石像物の
中に石の船に乗ったお地蔵さんが祀られて
います。

享保四(一七一九)年、信州から下総国(群
馬県)の岩船念仏踊が甲府にやってきました。
地蔵を天蓋のついた輿にのせ、笛や太鼓
ではやし、踊りを踊って念仏信仰を広めた
といえます。深く信仰すれば五穀を船に積

んで持ってきてくれて、死ねば極楽浄土へ
案内してもらえろということとで、各地に念
仏講がつくられました。

下帯那の岩船地蔵は、もとは帯那川附近
に安置されていましたが、道路改修にとき
に他の石仏といっしょにいまの場所に集め
られました。



幸潤院信玄公御詠所

武田信玄は、幸潤院の住職に
追い返されたことがある。

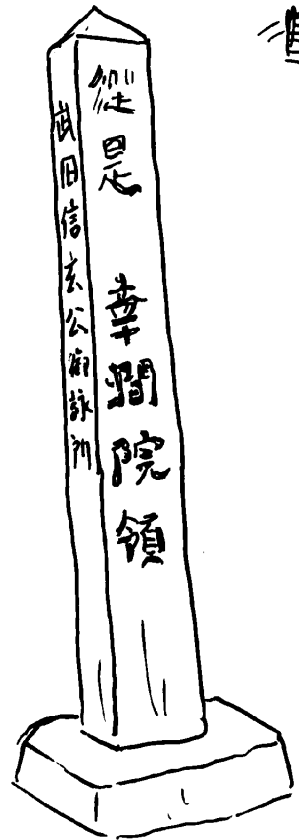


08



幸潤院は武田信虎の弟・吸江英心(きゅうこうえいしん)が開いたお寺です。往時は末寺を十カ寺も持つ名刹(めいさつ)でした。『甲斐国志』には、武田信玄の弟・信繁の子である武田信豊の菩提寺ではないかという記述もあり、武田家に縁の深いお寺です。階段を上すると両脇に大きな池があり、格式の高いお寺であることが伝わってきます。

幸潤院の山号は「金峰山」です。古い時代に火災にあったため由緒などはわかっていませんが、金峰山への主要なルートのひとつが帯那を通ることから、古くからの山岳宗

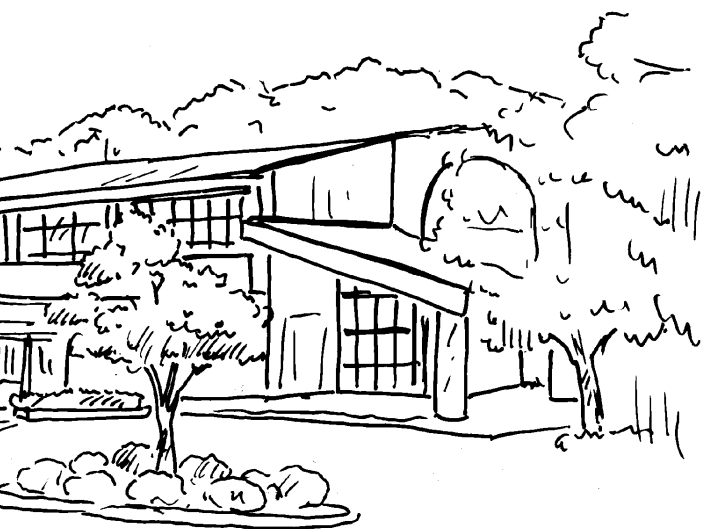


教系の寺であつたとも考えられています。

幸潤院にはこんな言い伝えがあります。

武田信玄が小諸から城に戻る途中で寺の前を通りがかりました。「通りがてら寺に立ち寄りたい」と使者をつかわせたところ、「ついでに寄りたいとは無礼」と吸江和尚に断られてしまいました。仕方なく信玄は寺の入り口付近で拜んで帰りました。

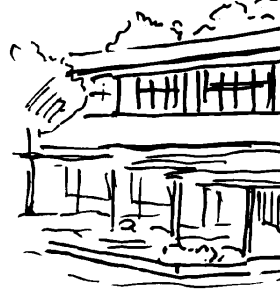
現在その場所には「武田信玄公御詠所」と刻まれた標石が建っています。



09

千代田小学校

千代田小学校は百四十年の
歴史ある学校である。



千代田小学校は、明治六（一八七三）年に開校した長い歴史のある小学校です。開校当初は、下帯那の養節院を仮校舎にして帯那学校と呼ばれていましたが、明治二十二年に千代田尋常小学校となりました。

明治四十四年には校舎を新築し、盛大に落成式が行われたという記録が残っています。当時の児童数は二百二十名。かなりのマンモス校だったようです。

昭和五年には二百六十七名もの児童数がありました。が、次第に減少し、現在は他学年と二学級を編成する変則複式学級を取り入れています。



「心豊かでたくましく、自ら学び、自ら考へ、実践する子どもの育成」という学校教育目標のもと、豊かな自然環境と小規模校の特性を学習指導に取り入れています。

福祉施設千代田荘への訪問、NHK合唱コンクール特別賞受賞以来つづけている全校合唱、表現力得を養う一分間スピーチ、たくましい心と体をつくる一輪車といった学校活動は千代田小教育の根幹を形成するものです。今後の活動として伝統を継承しつつ、自然観察や農業体験、環境学習などの地域文化の伝承と発展に向けて新たな取り組みも検討しています。

丸山貯水池の碑

千代田湖は、
秩父多摩甲斐国立公園の
中にある。

10





千代田湖の湖畔に「丸山貯水池之碑」と書かれた大きな石碑が建っています。釣人でにぎわうボート乗り場や集落から離れた場所にひっそりと建つこの石碑には、丸山貯水池がつくられた当時の記録が刻まれています。

碑の前には、余水吐（よすいばき）と呼ばれる、余分な水を帯那川に放流するための設備があります。その横には、塔岩沢取水ト

ンネルも設けられています。水が不足した時に塔岩沢川から河水を補充するための隧道で、灌漑用の貯水池としての千代田湖の貯水量を守る施設なのです。

また、千代田湖周辺は秩父多摩甲斐国立公園に指定されていて、日本を代表する風景地として保護されています。



牛頭天王(ごずてんのう)と石像物群

千代田湖の湖畔には

牛の姿が描かれた「牛頭(ごず)天王(てんじう)」の
石碑が祀(まつ)られている。



千代田湖の湖畔の針原の集落に石造物が
集められた場所があります。道祖神やお地
蔵さんなどが祀られている中に珍しい「牛
頭天王」の石碑があります。碑面には「明治
十三年 津嶋牛頭御天王」という文字とそ
の下には牛の姿が彫られています。

牛頭天王はインドの祇園精舎の守護神
で、厄よけ、魔除け、疫病を防ぐ神様として
広く信仰されています。江戸時代には、コロ

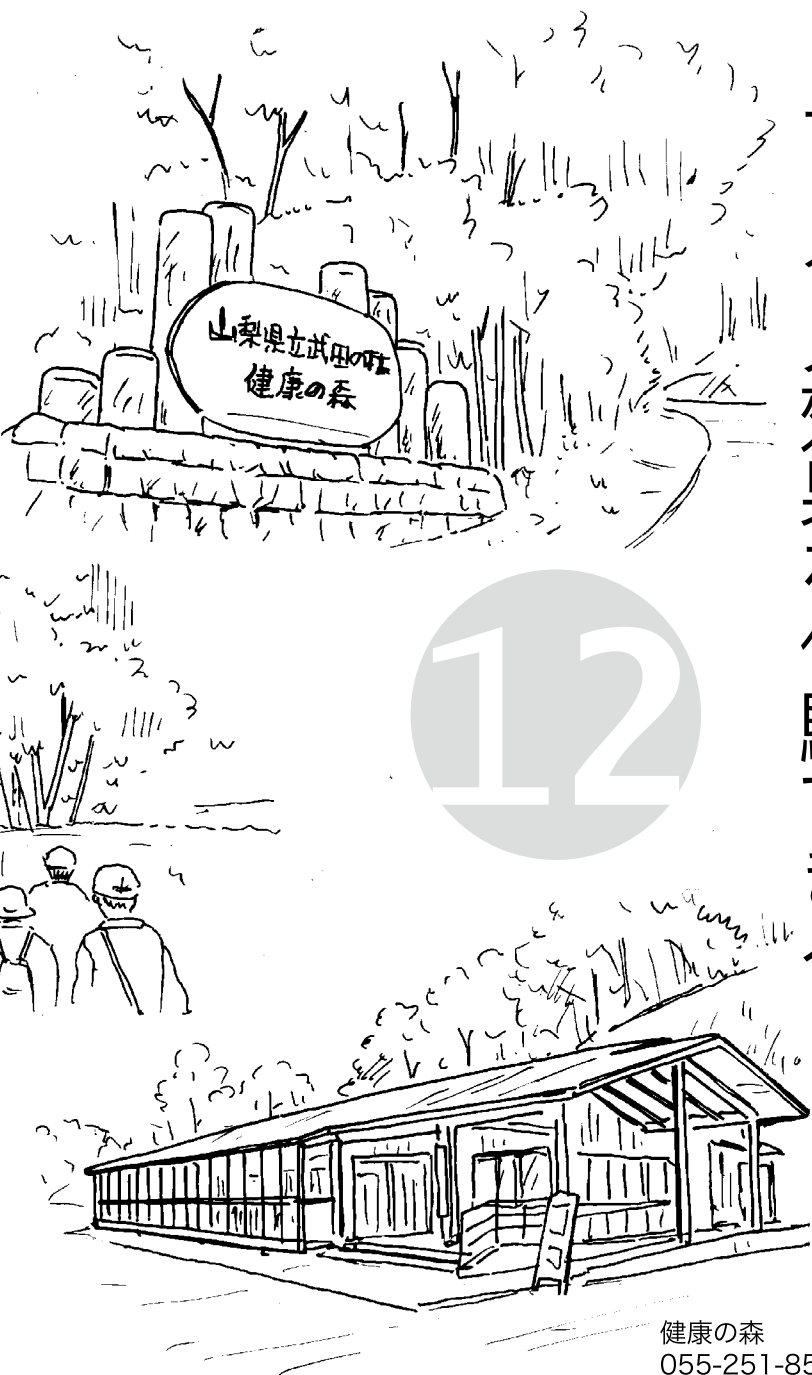


リ(コレラ)などが大流行すると、庶民は代
官所に願い出て疫病神宛の退散状を発行
してもらおうということがあったそうです。
書状には「疫病神よ退散せよ でないと牛
頭天王をお願いして兵にとらえてもらう
ぞ」といったことが書かれていました。注射
や薬のない時代、神仏にたよるしかなかつ
た庶民の滑稽にもみえる切ない思いが見え
てきます。

健康の森

「健康の森」では、医学的に証明された
リラククス効果を体験できる。

12



健康の森
055-251-8551

山梨県により、甲府市北部に広がる二五〇〇ヘクタールの森林が『武田の杜』として整備されています。その『武田の杜』の中心施設として、千代田湖の西方に「健康の森」があります。

「健康の森」は平成二十五（二〇一三）年に森林セラピー基地に認定されました。森林セラピー基地とは、森林浴の癒やし効果が科学的に裏付けられた場所で、県内では西沢渓谷（山梨市）に続く二カ所目です。なかには二十二キロメートルに及ぶ遊歩道が整

備されていて、誰でも気軽に森林浴しながら散策が楽しめます。

また、森林学習展示室、野鳥昆虫観察小屋、キャンプ場といった施設もあり、教育の場としても利用されています。森林セラピーガイドによる『森林セラピー体験ツアー』も開催されていて、参加者は地元食材をふんだんに使った「武田の杜ヘルシー弁当」を味わうこともできます。

また、最近では甲府盆地を一望できる展望台からの夜景も人気です。



健康の森

『全国植樹祭』の第一回目は
山梨県で行われた。



13

国土緑化運動の行事として、「全国植樹祭」が毎年春に開催されています。天皇后両陛下のご臨席のもと、全国各地から緑化関係者が集まり、両陛下によるお手植えや参加者による記念植樹などを通じて国民の森林に対する愛情を培うことを目的に行われています。

明治期以降の日本の国土は、新たな産業の勃興や人口の増加、戦争などの資源確保のために、森林の大規模な伐採が行われていました。そのため森林は荒廃し、全国各地で土砂災害や洪水が頻発していました。



その国土が緑豊かに復興することを願い、昭和二十五（一九五〇）年四月、甲府市で第一回「植樹行事並びに国土緑化大会」が開催されました。そのときに、昭和天皇がお手植えになられたヒノキが、今も健康の森のごつています。

今では想像できませんが、当時の甲府市片山の県有林はほとんど樹木のない、石がゴロゴロしている山でした。半世紀を越え、現在ではヒノキをはじめアカマツやクヌギなどの豊かな緑に覆われています。

佐藤紫舟記念碑

千代田湖の湖畔には、へら鮒釣りの名人
佐藤紫舟(まとうししゆ)の碑が建っている

佐藤紫舟は浅草へら鮒会の二代目会長です。もとは鉄工所を経営していましたが、のちに算盤塾の先生となりました。初代会長・叶九隻(かのつきゆうせき)の愛弟子ですが、釣りの腕前は師匠を遥かに越えていたともいわれています。

日本へら鮒釣研究会の理事長として会員を一万二千人に増やし、研究会に発展にも力を尽しました。平成八(一九九六)年に亡くなり、翌年この記念碑が建てられました。碑面には、「我が人生 よき友に恵まれ 悔いなし」という佐藤の言葉が刻まれています。

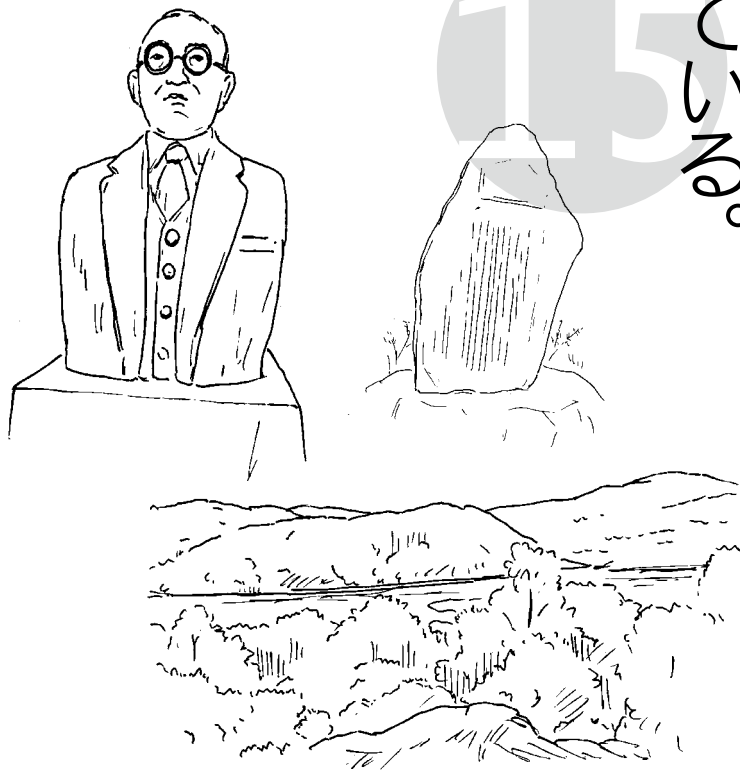


湖畔の神宮司新太郎の銅像と石碑

湖畔の高台にから、神宮司新太郎が 千代田湖を見守っている。

山梨県は昭和七年に千代田村丸山にため池をつくる案を提案しました。この案で耕地が潰され地租収入減るなど甚大な被害をうけたのは千代田村です。損害の補償求め、当時村長であり千代田村第二耕地整理組合組合長だった神宮司新太郎が甲府市に嘆願書を提出しました。

嘆願書には、移転するためには親族や知人に手伝ってもらったり、外からやってくる人夫等の治安問題など、精神的な負担もあげられています。当たり前のようにある水ですが、誰かの犠牲の上にあるものだったとあらためて考えさせられます。





白山

白山 (しんがき) はその名の通り、

白く輝く山だ。

16



千代田湖の東側に白山があります。その名のとおり花崗岩(かこうがん)の岩肌が白く輝いてみえる山です。約六百メートルほどの小山なので、遠足などで行ったことのある人も多いのでは。

湖畔からいくつもの遊歩道が整備されていて、ここから湯村山や興印山(こういん)やま(まで)足を伸ばす人もいるそうです。途中とところどころで甲府盆地や周りの山々の絶景が望めます。手軽に登れる山ですが足下



が滑(すべ)りやすいのでご注意ください。

「甲斐国志」には下帯那・羽黒・和田の三村の境に突起した禿(は)げ山で、頂上に権現が祀られていると書かれています。

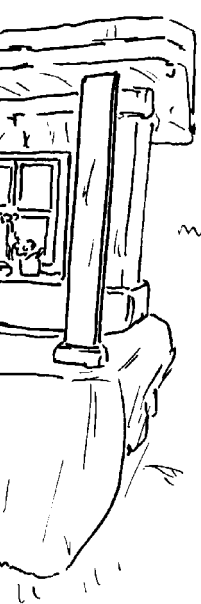
むかし、道人という人が世の中の乱れを嫌い、悟りを開こうと山にこもり、断食の修行をしました。その後、迷いのある人が座禅をするときちどころに迷いがなくなるといいます。今ではその場所に八王子権現が祀られています。

白山八王子神社

八王子神社は、八人の神様を
祀った神社だ。



17

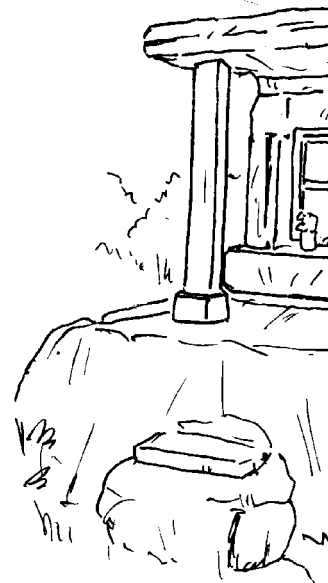




白山の遊歩道を進むと、大きな岩の上に

高さが一メートル七十センチ、幅が二メートル以上もある大きな石の祠が祀られています。天照大神(あまてらすおおみかみ)とスサノオノミコトとの間で交わされた誓約(「うけい」ともいう。占い)の際に生まれた三女神と五男神を祀ったといわれる八王子神社です。

富士山、金峰山、鳳凰山など山岳信仰が盛んな甲斐において、ここ白山は金峰山への参道のひとつにもなっていました。眼下にひろがる甲府盆地と富士山を正面に仰げる絶景の地に、霊山崇敬と五穀豊穡の願いをこめて建てられたのではないかと考えら



れています。

また、祠の近くには、「閑院宮殿下 同

妃殿下 登臨記念碑」と刻まれた石碑が建っています。閑院宮(かんいんのみや)は江戸時代に創設された宮家で、その六代載仁(ごとひと)親王と妻・智恵子妃殿下が明治三十九(一九〇六)年に日本赤十字社山梨支部の大会に出席するために甲府を訪れます。この石碑がそのことを記念して建てられたものはわかりませんが、智恵子妃殿下は三条家の出身で武田家と縁が深い方として県をあげての大歓迎だったという記録が残っています。